

生活

令和6年度 授業改善のポイント

- 1 生活科と他教科等において、学んだことがどのように関連付いていくのかを考慮し、指導の時期や指導の方法などについて吟味した上で、単元や授業を構想する。
- 2 具体的な活動や体験を通して生まれた気づきを、言葉・絵・動作・劇化などの多様な方法によって伝え合ったり振り返ったりして表現する活動を設定する。

生活科と他教科等との関連を意識した授業づくり

【指導事例】 「たのしい あき いっぱい」 (小学校第1学年)

9月下旬の「たのしいあきいっぱい」の単元は、算数科の加法や減法、国語科の秋のことばと関連付けたり、図画工作科の造形遊びや工作に表す活動を通して学んだ発想の仕方や技能を活用したりできるよう構成しよう。

〔内容〕 (5) 季節の変化と生活
(6) 自然や物を使った遊び

(作成例)

月	9月	10月	11月	12月
国語	すきなもののなかに こんなことあったよ	くじらぐも ことばをたのしもう	じどう車くらべ	わらしべちょうじや
算数	わかいやすく むかししろう	どろがおい たしざん	かたちあそび ひきざん	おおいかず
生活	いきもの ななよし	たのしい あき いっぱい	じぶんで できるよ	
音楽	どれみとなか よくなるう	はんなりつで よみかけあおう	かきと なかくなるう	ようすをおもい うかべよう
図工	ふわふわゴ- はって かきねて	ちぎって ちぎって	あそぼう パワパワさん	スタンプ スタンプ にっこり

ポイント1 生活科と他教科等とのつながりを把握するためには、1年間の全ての単元を配列し、俯瞰することができる単元配列表を作成することが大切です。

小単元1：こうていで あきを さがそう

小単元2：あきの ことをつたえよう

小単元3：あきの おもちゃをつくろう

国立教育政策研究所
「発達や学びをつなぐスタート
カリキュラム」
(p14～p18参照)



「見つけた秋で遊びたい」という児童の思いを実現させてあげたい。どんな遊びをしたいのかについて遊びの計画を立て、最後に紹介し合う場を設定しよう。気づきがより具体的になるかもしれない。

【一人で没頭して取り組む児童の姿】

私は、校庭にたくさんあったまつぼっくりと紙コップをひもでつないでけん玉を作りたいです。

まつぼっくりのけん玉遊びはとても楽しそうですね！

【協働的に取り組む児童の姿】

僕は、くつつく実をひもにつないで、いろいろなものにくつけて遊びたいです。

いろいろなものとは、どのようなものですか？

重要 児童の思いに共感し、言葉に出して意思疎通を図ったり、児童の発言を受け止め、問い掛けたりすることで、児童が感じ取った事柄を深く理解することが大切です。

図工の時間に使った用具を使えば紙コップに穴を開けられそうだな。

いろいろな長さのひもで作ったのですね。どうしてですか？

ひもを長くしたら難しかったから、短いものと長いものの両方を作ることになりました。

服にはよくついたけど、水筒にはつかなかった。ほかにもよくつくものを探してみます。

フェルトを使ったらいいと思うよ。魚の形に切って、魚釣りをしたらどうかな？

そうか。魚に点数を付けて、友達と比べたら楽しいね。一緒に作ろう！

【表現する活動の設定】

作ったおもちゃの遊び方を動画で撮影して、みんなで紹介し合いましょう。

ICT 児童がタブレット端末で撮影したおもちゃの遊び方の動画は、共有できるフォルダなどに保存することで、児童が説明したり教師が評価したりする際に活用できます。



ポイント2 重要 直接対象と関わる体験活動と、体験活動を通して生まれた気づきを表現する活動とが、連続的・発展的に繰り返されることで、育成を目指す資質・能力を発揮する児童の姿が繰り返し表れます。表現する活動を設定することで、無自覚な気づきが自覚的になったり、ばらばらのように思えた気づきが関連付いたりします。

小単元4：いっしょに あそぼう